

Q 転出入者アンケート 結果から見えるもの

おおよそねひであき
大曾根英明 議員



A 本調査等を踏まえ、総合計画の 策定を進めていく

問 調査の方法・回答状況は。

答 平成30年度鶴ヶ島市転出者・転入者向けアンケートは、おおむね40歳台以下の転出者及び転入者を対象に、スマートフォンを用いた電子申請システムにより実施した。293人にアンケート用紙を配布し、46人から回答を得た。回答率は15・7割である。

答 昨年度の市民意識調査における若い世代の回答率が低かったことから、本調査は、若い世代に限定して実施した。対象の世代に抵抗が少ないと考え、電子申請のみ

問 今後について。
答 本調査では、回答率の低さに改善が必要であると認識している。



よる誤差の大きさには留意を要するが、一定程度の傾向は把握できた。シティブロモーション等による転入促進を図る取組のほか、住んでいる市民の満足度を高め、転出抑制を図り、転入者の呼び込みや再転入につながることも必要である。また、居住地の選定理由等から、職住近接につながる仕事・産業に関する施策が重要であると考えられる。本調査結果や各種調査、意見等を踏まえ、引き続き第6次総合計画の策定を進めていく。

Q フレイル予防について

こばやし
小林ひとみ 議員



A 健康寿命を延ばす鍵であり、 フレイルチェックを導入したい

問 フレイルとは。

答 健常から要介護へ移行する中間の段階と言われている。加齢に伴い筋力が衰え、疲れやすくなり、家に閉じこもりがちになるなど、年齢を重ねたことで生じやすい衰え全般を指す。このフレイルを予防することが健康寿命を延ばす鍵であり、介護予防に重要であると考えている。

問 フレイル予防の取組について。

答 従来の介護予防事業の取組に加え、広く栄養、身体活動、社会参加につながる様々な事業もフレイル予防の取組であると考えられる。そのため、市広報に健康なまらづくりにガイドを掲載した。今後は、



問 パンフレットの発行や講演会などを通じて市民啓発に努めるとともに、来年度からのフレイルチェックの導入に向けて準備を進める。

答 フレイル予防の担い手を育成するためにしていることは。

問 来年度からのフレイルチェックの導入に向け、今年度はフレイル予防の周知とフレイルサポーターの養成に向けた準備を進めていく。広く市民からボランティアを募り、サポーターの養成講座や養成後のフォローアップ講座等を開催する予定である。

◎その他の質問 液体ミルク等の導入について